

和菓子で地域へ恩返し

住宅街にある和菓子店。上新粉は渋川市産を使用し、定番の豆大福や片品村産大豆のきな粉を使った真田餅などが並びます。2019年、岡田久美子さんが和菓子「おか田」を開店させました。

2014年、千葉県習志野市から夫の恒栄さんと移住。都内で20数年、和菓子店を営んでいましたが、「ほどこよい田舎暮らしを楽しみたい」と、関東周辺で移住先を探していました。沼田には、玉原高原の「星空観察会」や、南郷の曲屋のスローフード体験などに足を運んでいました。自然の豊かさや人の優しさに魅了され、また、都内へのアクセスが良く、医療機関やスーパーが充実していることから、移住を決めました。都会暮らしから大きく変わったのは地域との交流。

以前は顔を合わせればあいさつする程度でしたが、今では農作業をしている人から声を掛けられたり、近所からお裾分けをいただいたりしています。ボランティア活動にも参加し、畑仕事など田舎ならではの体験を楽しんでいます。

移住後の仕事は予定していませんでしたが、地域へ恩返しをしたと、店舗兼住宅の和菓子店を構えることに。「おまんじゅうがおいしい」と親しまれています。開業前には、南郷の曲屋のスタッフから看板や椅子を作ってもらったなどの応援もありました。

医療機関へはバスで通い、「バスの本数が増えて乗りやすくなると、自動車免許返納も身近になるのでは」と岡田さん。都会目線も持ち合わせ、地域に溶け込み沼田暮らしを満喫します。



和菓子おか田
岡田恒栄さん、久美子さん - 柳町-

旬の素材を使ったものや季節を感じる和菓子が並び



【写真上から】季節限定のごまあんが入った麩まんじゅう／趣のある和風の店構え／移住前に参加した田舎体験ツアー。今ではスタッフとして手伝っている

特集2 理想の移住を叶える

若者の都会への転出や少子化の加速などで人口減少が課題となる中、沼田に魅力を感じて移住してくる人たちがいます。「住みやすそう」「東京に近い」「理想の働き方ができそう」。住み慣れた土地を離れてさまざまな思いを描き、新天地で新たな人生を歩む皆さんの今を紹介します。